

視 察 研 修 等 報 告 書

令和7年1月20日

坂井市議会

議 長 戸 板 進 殿

会 派 名 創政会
報 告 者 林 豊夏

1. 日時 令和6年12月27日(金)
2. 視察研修先 TKP 宇都宮カンファレンスセンター
(栃木県宇都宮市駅前通り 1-3-1)
3. 視察研修内容 地方議員研究会セミナー受講 講師：牧瀬 稔氏
(1)人口減少に勝ち抜く戦略
(2)人口減少と共存する方策
4. 参加者 林 豊夏

5. 内容詳細

(1)人口減少に勝ち抜く戦略

このセミナーでは、「人口減少時代を生き抜くための戦略」が議論されました。特に、「人口減少を前提とした政策」と「人口維持・増加を目指した政策」という2つの方向性に基づく施策が紹介されました。また、自治体間での人口争奪競争が激化している現状を踏まえ、地域ブランド戦略やシティプロモーションの重要性が説明されました。

1. 「シティプロモーション」の活用

地域住民の誇りや愛着を育む「シビックプライド」の醸成が、人口維持の鍵であるとされました。具体例として、相模原市が「シビックプライド条例」を制定し、市民参加型イベントや地域資源を活用した観光プロモーションを推進している事例が取り上げられました。

2. 外国人労働者の受け入れ

労働力人口の減少に対応するため、外国人労働者の活用が挙げられましたが、現状では法整備の遅れや日本の国力低下が課題となっていることも指摘されました。

3. 転入促進の施策

自治体が住民基本台帳データを活用し、転入者が多い地域をターゲットにしたポスター掲示やイベント開催が成功を収めた事例が紹介されました。

4. 人口減少を前提とした政策の必要性

人口減少時代においては、転出を抑制し、転入を促進する「社会増」の視点が重要であるとの議論がありました。

5. 地域間競争の課題

自治体間で人口を奪い合う競争が起きており、その中で持続可能な成長を実現するための戦略が模索されました。

6. 住民参加型プロジェクトの意義

地域住民が主体的に関わることで、地域の持続可能性や魅力向上が期待できるとの意見が交わされました。

(2) 人口減少と共存する方策

セミナーでは、人口減少時代を見据えた地域活性化の取り組みが紹介されました。講師は、人口の自然増が難しい中で、交流人口や観光客を活用した施策が重要であると強調しました。観光庁のデータによれば、外国人観光客 8 人分、国内観光客（宿泊）12 人分、国内観光客（日帰り）75 人分の消費が、定住人口 1 人分の年間消費に相当するとの分析が示されました。この数値を基に、観光産業を軸とした経済活性化が、人口減少時代における有効な戦略であると説明されました。

1. 境港市「水木しげるロード」

妖怪文化を活用し、観光客を誘致する事例が詳しく紹介されました。この事業の起点は、商店街の活性化を目的として地元住民を巻き込みながら企画された点にあります。行政が初期投資として妖怪ブロンズ像を設置し、その後は地元住民によるイベント企画や寄付を活用したさらなる像の設置が続きました。その結果、観光客数が飛躍的に増加し、地域全体の経済が活性化しました。

2. 上勝町「葉っぱビジネス」

高齢化を逆手に取り、高齢者が活躍できる産業を作り出した事例として紹介されました。料理の装飾用の葉っぱを商品化し、都市部の料亭やホテルに出荷することで、年間数億円の経済効果を生み出しています。高齢者が主体的に働ける環境が整備され、地域コミュニティの活性化にもつながった点が注目されました。

3. 宇都宮市「餃子プロモーション」

餃子を地域の象徴とし、観光資源として活用する事例が取り上げられました。市全体で餃子をテーマにしたイベントや施設を整備することで、観光客の誘致に成功しています。また、餃子像や専門店のネットワークを通じて、地域全体で統一感のあるブランディングが実現されました。

4. 交流人口の拡大戦略

地域資源を活用した交流人口の拡大は、経済活性化だけでなく、住民の誇りや愛着心の形成にも寄与するとの議論がありました。

5. 行政と住民の役割分担

地域活性化には、行政が初期段階の基盤を整備し、住民が主体的に事業を運営するモデルが有効であると強調されました。

6. 観光と地域経済の持続可能性

観光業を軸とした経済の持続性を確保するためには、定期的なイベントの実施やリーダーの育成が重要であるとされました。

6. 所見・感想等

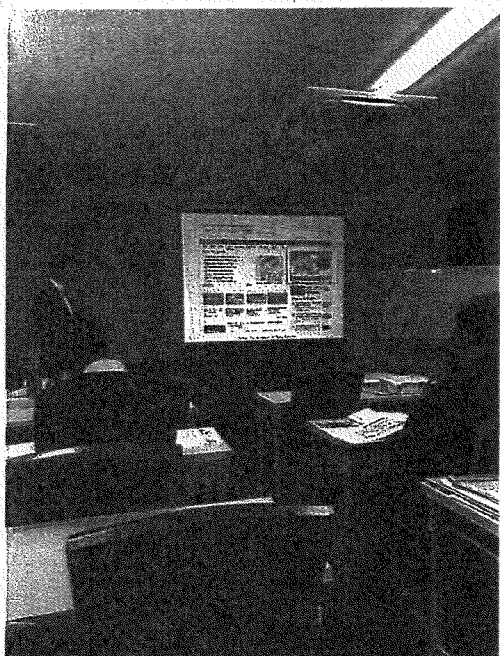
「人口減少と共存する方策」

各地域の事例から、地元資源の有効活用と住民主体の取組が地域活性化のカギであると感じました。「水木しげるロード」の事例では、観光地化による経済波及効果だけでなく、地域の一体感やシビックプライドの醸成が大きな成果として挙げられており、坂井市でも応用できると考えます。

「人口減少に勝ちぬく戦略」

人口減少時代において、転出の抑制や転入促進を目指した戦略が多岐にわたることを再認識しました。「シティプロモーション」の一環として、坂井市でも地域ブランドや独自の魅力を発信し、住民が誇れるまちづくりを進める必要性を強く感じました。特に、外国人労働者の受け入れや定住促進には、地域全体での支援体制が重要だと考えます。

7. 添付書類



会 派 内 供 覧